

～はじめに～

川崎市議会議員欧州海外視察団 団長 鏑木 茂哉

世界中から発信される深刻な報道を居ながらにして知り得る今の情報社会に埋没している、およそ事大主義的な日常からの脱出と机上の頭でっかちとの決別は、海外視察の根底に流れる通奏低音のような効果があり、今回の「百聞は一見にしかず」の行脚は欧州に照準を定め、イタリア、クロアチア、オーストリアの三カ国とした。

とりわけ、クロアチアに主眼を置き、32年前に姉妹都市の関係を締結した同国リエカ市への表敬訪問、更には昨年国賓として来日した際、来川し、市長主催の昼食会でのご縁もあるメシッチ大統領への拝謁を視察計画の中心に据え、さらに、スカラ座やレオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晚餐」のあるイタリアのミラノ、モーツァルト、シューベルト、ベートーヴェンが歓び苦悩したウィーンの石畳、圧倒的な堂々たる国立歌劇場等、ヨーロッパの伝統的な歴史と眩いほど燦然と輝く文化芸術を生んだ風土と人々の生活、そして現代の「都市運営」、「まちづくり」をつぶさに視察し、等身大の現実を咀嚼吸収することで、本市の都市基盤整備をはじめ今後の歩むべき方向性に役立てるものと確信している。

今回の視察は限られた予算と時間により無駄の無いスケジュールを計画し、より意義あるものとする為の配慮に貫かれたものであることも付言する。

昨年、駐日クロアチア大使館で開催された建国記念パーティーにご招待いただき、その折、参議員の南野知恵子議員が出席されており、お話を伺ったところ日本・クロアチア友好議員連盟会長ということで、後日事務所に出向いてクロアチアについての情報をご教授いただいた。

南野議員は、旧ユーゴの独立紛争時、孤児となった子の里親になり、今はクロアチアで医大に在籍している等のお話をされ、その際メシッチ大統領へのお土産を託された。

このほか、在日クロアチア大使館作成の同国の経済等の基礎的資料等により、勉強会を幾度か開催した。

いずれにしても、欧州視察団の11人が今回の視察に対する様々な思いを結束して旅立った。

メシッチ大統領の風貌は野生的、精力的であると同時にきわめて牧歌的で親しみやすく友好的に私達を迎えてくれた。とは言うものの、紛争当時は投獄の経験を持つその存在感は、確固たるクロアチアの「意志」を漂わせていた。

地球規模のいたるところで自然の営みに異様で不気味な影響を及ぼしている温暖化現象。

私達は自然に抱かれて人間として悠久の時を過ごしてきたと思っている。

しかし、広大な宇宙の小さな星に住む私達は、それこそ地球の永い歴史の中でほんのわずかな一瞬に存在しているに過ぎない。

「果たしてこれでいいのだろうか？」という問いは、物質文明や私達が勝ち取ってきたと思っている便利さとは不条理の関係にあり、多くの哲学者や文学者を悩ませ悲しませてきた。

GDPを追えば追うほど、生活の豊かさ利便性を求めれば求めるほど傍若無人な、振る舞いをして「自然」を衰退させてきた。

果たしてこれまで見事に進めてきた生活向上を機軸とする発展、進化のベクトルを逆戻りさせることは先進国の横暴なのだろうか？

「富」と「貧困」の乖離は国家や地域の紛争を生み、より頑なな宗教にその救いを希求するようになるのもまた人間の性だ。

素晴らしい世紀の発明は人類の発展に貢献したと同時に地球の寿命に大きく影響を与えるパンドラの箱だ。

世界各地で見られる絶望的で醜悪な天変地異を、人間は一人ひとりが怯むことなく真に警鐘として捉え、何よりも価値観を一つにして世界がまとまることだ。

この誰もが知っている難しい問題に立ち向かう為にも地球を歩き回り、より世界を小さくすることが大事だ。

正義と慈愛と誠実さ、そして寛容さをもって！

～1991年から約4年間の悲惨な紛争を通して、クロアチアは独立し、現在に至っている。

これらの経過等は次の年表等を記すので、「はじめに」の背景として、ご理解いただきたい～

## 国名の変遷

1929年 ユーゴスラビア王国

1943年 ユーゴスラビア民主連邦

1946年 ユーゴスラビア連邦人民共和国

1963年 ユーゴスラビア社会主義連邦共和国

1992年 ユーゴスラビア連邦共和国

1992年 クロアチア共和国



鏑木視察団長とリエカ市議会議長

2008年3月5日

スティーエパン・メシッチ クロアチア大統領記者会見

～日本記者クラブ

ある意味で戦争のため、また、ある意味ではクロアチアの初代大統領の意向により、その当時は与党第1党のみの政府で、それがすべてのことを決め、別の政党は飾りにすぎませんでした。防衛のための戦争となったクロアチア側にも残念ながら戦争犯罪が出ました。第二次大戦中から、敵意、憎悪が再燃し、過去を清算しようとする動きも少なくありませんでした。

そのようなときに犠牲になる人が罪のない人々なのです。当時のクロアチア政府は、そのような状況に目をつむり、人道的にも少数民族の権利に対しても、目を向けず、何の成果もない政治に没頭し、結果的には世界から孤立してしまいました。

こんな状況に変化が起きたのは、国会議員選挙と大統領選挙の後の2000年のことでした。当時の野党が連立政権をつくり、私は大統領としてその権限を決め、国会の民主主義の確立に力を注ぐべく改革を行いました。現在、私たちは、当時整えた道を進んでいるわけです。(抜粋)

## 川崎市とリエカ市との主な交流

- 1977年 姉妹都市提携
- 1980年 川崎市から友好のシンボルとして石灯籠を寄贈
- 1981年 川崎市議会議員団がリエカ市を訪問
- 1982年 川崎市・リエカ市姉妹都市提携 5 周年記念ユーゴスラビア風景画展示及び物産展を開催
- 1983年 川崎市で開催された青少年国際交流フェスティバルにリエカ市代表の少年が参加
- 1985年 川崎市議会議員団がリエカ市を訪問
- 1986年 川崎市議会議員団がリエカ市を訪問
- 1987年 リエカ市代表団が来川、提携 10 周年記念式典、記念音楽会を開催
- 1988年 川崎市議会議員団がリエカ市を訪問
- 1990年 川崎市長がリエカ市を訪問、リエカ市長が来川
- 1992 年 リエカ市現地調査及び 1 万ドルを送付(ユーゴ情勢の変化により人道的見地から実施)
- 1997年 川崎市民交流団がリエカ市を訪問
- 1999年 川崎市長がリエカ市を視察
- 2000年 リエカ市長が来川
- 2001年 リエカ市文化局長、青少年美術団が来川

- 2007年 川崎市長がリエカ市訪問、提携30周年記念式典を開催  
リエカ市長ほか代表団が来川、交流音楽祭に参加  
リエカ・ピアノ五重奏団を招聘、ミューザ川崎シンフォニーホールほかで公演
- 2008年 クロアチア共和国大統領が来川
- 2009年 川崎市議会議員団がリエカ市を訪問、ザグレブ市の大統領府内にて大統領に拝謁  
クロアチア世界遺産写真展をミューザ川崎シンフォニーホール（企画展示室）にて開催